

保護者・地域等学校関係者の皆様への教育長メッセージ ②⑥
『津島には本物がある』

美しい季節となりました。天王川公園も桜から藤、そして躑躅へ、ピンクから淡紫（藤）、そして真紅（薄桃）へと変化しています。足元は、白い水仙から黄色の蒲公英、さらに紫の菖蒲へと変わりました。花を探して歩くには、一年で一番楽しいシーズンを迎えています。

市長さんはよく「津島には本物がある」と言われます。何気なく聞いていましたが、ゴールデン・ウィークに、強く実感することがありました。一つ目は、29日に雨の中、米之座から北町、本町、南本町の街並を歩きました。江戸時代の後半から明治にかけての町家が何軒もありました。屋根神様や茶室まで残っている家もありました。この界限はまだ六割近く、古い街並が残っています。街並としての全体の保存は難しいかもしれませんが、建物を一つでも多く残すことができたらと思いました。

二つ目は近現代の文化人の作品が数多く残っています。杉本健吉氏の小学生の時の卒業制作には驚かされました。尾張津島天王祭や津島神社、津島から見える多度の山並を愛した杉本氏の人柄が偲ばれました。松下芝堂氏の書、横井照子氏や真野広氏の絵画、津島とゆかりの深い作品を見ることができました。

三つ目は津島神社の社務所に展示された、尾張津島天王祭の屋台幕です。その刺繍の美しさ、豪華絢爛に驚きました。このような幕が祭り舟を飾っていることに感動しました。

講演会で面白い話を聞きました。明治天皇が京都から江戸に向かわれた時、小休憩をした場所に記念碑が建っていたり、おしっこ（小便）をした所に椿の木が植えられていたりすることがあると教えていただきました。早速、市役所の南、埋田にある「明治天皇小休止所」を探しあてました。大地主神社（おおとこぬしじんじゃ）には椿の記念碑まで残っていました。津島にはデラックスな本物が沢山残っていることをあらためて確信しました。

四月の校長会議で校長先生方に私が「今」悩んでいる事をお話しました。不登校の子どもたちが増えているが、どう対応していくか。コロナ禍の中、どのように学力を身に付けていくか。プログラミング学習では、子どもたちや先生方のモチベーションをどう高めていくか。さらに、私自身、中々できていない県教委や市教委から発出された文書を丁寧に読むことを提案しました。コロナ禍の中、子どもたちや教職員、保護者の皆さんの命を最優先するため、ソーシャル・ディスタンスや消毒の必要性についてもあらためてお願いしました。

暖かやカラー靴の一年生

令和4年5月9日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視